

# 2009年度 地域課題研究

2010年3月

北九州市立大学都市政策研究所

## — 報告書の構成 —

北九州市立大学都市政策研究所では、設立以来、地域が抱える中長期的な課題について、学際的な視点から調査研究を行ってきました。平成 21 年度は、「中古住宅の流通」「自転車を活かしたまちづくり」「折尾地区の研究拠点性」について調査研究を行いました。

### 《中古住宅の流通》第一章

人口減少社会における空き家の増加は、社会問題を深刻化させる懸念が大きく、それを防ぐ対策として利用価値のある中古住宅の流通促進を通じた良好な住宅ストックの形成が求められています。本研究では、中古住宅流通の可能性や課題を探ることを目的に、大都市のなかで人口・世帯の減少や空き家の増加が先行している北九州市を対象として、既存統計や不動産事業所に対するアンケート調査を用いて空き家化の実態や不動産業の状況を把握するとともに、中古住宅流通促進の課題について考察します。

### 《自転車を活かしたまちづくり》第二章

本研究では、日本とドイツにおけるレンタサイクルや自転車タクシーの先進事例を通じて、これらが観光地やトランジットモールでの利用に最適であり、中心市街地活性化にも寄与する移動手段であるという特性を明らかにしています。その上で、具体的に北九州市の小倉都心地区におけるコミュニティサイクル事業や門司港地区における自転車タクシー事業を持続的に展開していくための課題を指摘し、そのための具体的方策を提言します。

### 《折尾地区の研究拠点性》第三～七章

知識情報化社会においては、クリエイティブ・クラスと呼ばれる知識階層が価値創造の源泉であり、これら人材の集積が都市の成長に不可欠であるといわれています。北九州市においても、2001 年に「学術研究都市」を整備して、知の拠点化を推進しているところです。そこで本研究では、学術研究機関が数多く立地する折尾地区を対象に、知的創造拠点としてのあり方を研究開発基盤と生活面の双方から調査研究しています。具体的には、まず知識社会における都市政策の動向を、文献を中心に調査・整理（第三章）し、次に全国の研究パークで働く研究者等を対象に、研究パークに必要な機能や課題をアンケート調査により明らかにしています（第四章）。さらに就業及び居住に対する意識について、日本・アメリカ・イタリアの比較調査を行っています（第五章）。最後にこれらの結果をもとに、折尾地区の学術研究機関で働く研究者を対象に、折尾地区が知的創造拠点として発展していくために必要な機能や現状の課題をアンケート調査により明らかにし、全国の動向と比較しながら、今後の展望を示唆しています（第六章）。また小倉南区と若松区の住民を対象に、居住志向や折尾地区のブランド化について調査を行っています（第七章）。

（都市政策研究所 教授 吉村英俊）

# — 目 次 —

第一章 良好な住宅ストック形成に向けた中古住宅流通の課題 .....	1
北九州市立大学都市政策研究所 教授 伊藤 解子	
第二章 自転車を活かしたまちづくりの課題と展望 .....	23
北九州市立大学都市政策研究所 准教授 内田 晃	
第三章 知識社会における都市政策 —見えざる都市の質に関する考察を中心として— .....	41
日本経済政策学会 会員 岡 俊明	
第四章 リサーチパークに要求される機能・環境 .....	47
北九州市立大学都市政策研究所 教授 吉村 英俊	
第五章 就業及び居住に関する国際比較 .....	67
北九州市立大学都市政策研究所 教授 吉村 英俊	
第六章 折尾地区の研究開発拠点としての評価と展望 .....	79
北九州市立大学都市政策研究所 教授 吉村 英俊	
北九州市立大学大学院マネジメント研究科 非常勤講師 吉田 潔	
(株式会社地域マーケティング研究所 代表取締役)	
日本経済政策学会 会員 岡 俊明	
第七章 折尾地区のブランド化とその方向性 .....	103
北九州市立大学大学院マネジメント研究科 非常勤講師 吉田 潔	
(株式会社地域マーケティング研究所 代表取締役)	